

2001年未来基金活動報告

「よく分かり、感動体験のある授業構造の改善」

－ 台のパソコンを利用して－

『0』からの出発の平均的な学校の記録



1999年度採択校福井県小浜市立松永小学校

TEL・FAX 0770 - 57 - 1214

E-mail matunaga@land.hokuriku.ne.jp

活動報告内容

- テーマ設定の理由 「足元」と「将来」から
- 授業構造改善のための仮説
- 教材ソフトを利用した授業の実践
- 授業実践の評価
- 平成11年度の取り組みの成果
- 平成12年度の取り組みのための仮説
- 平成12年度の具体的実践計画
- 助成金等による教育環境の整備状況
- お礼に代えて「一年間で学校が大きく変わった」

授業実践記録

「2001年未来基金最終報告書」としてH12.2に未来基金運営委員会と市内各小中学校に送付させていただきました。

プロジェクトのテーマ

「よく分かり、感動体験のある授業構造の改善」

テーマ設定の理由1 「足元」から

「不登校等の非社会的問題」「非行等の反社会的問題」
「小学校高学年・中学校での授業の成立しない学級」
「高校生の中退問題」「大学生の低学力化」等々

「学習内容がよく分からない」「授業が面白くない」
学校生活に対する充実感が薄れていることが、これらの問題を起こしている一因になっているのではないか？

テーマ設定の理由2 「将来」から

「よく分かる授業」
「学ぶ楽しさ、喜びのある授業」
「知的な感動・感激のある授業」

学校生活に対する
充実感

「学習意欲の向上」

「自分で課題を見つけ」「自ら学び」「自ら考え」「課題を解決」する力

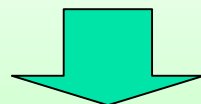
「生きる力」

「授業構造の改善」のための仮説

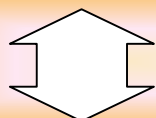
従来の授業構造の中での教材ソフトの利用



「教材ソフトを使った授業をしなくとも・・・」



教材ソフトに合わせた授業づくり



教材ソフトの特性を生かした授業

授業構造改善のための仮説

パソコンソフトを利用することにより教師自身の持っている授業構造を改善せざるをえないのではないか。

教材ソフトを使った授業の実践 (算数シミュレーションソフトを中心に)

H11.6 4年算数「角の指導」

「従来の授業構造に合わせた教材ソフトの利用」から「教材ソフト合わせた指導案」を全職員で作成。授業実施。



本校の目指す授業づくりに教材ソフトの利用が有効であることを共通理解



全職員が 教材ソフトを利用した授業の**実践記録集**を作ることを確認



授業の評価1 授業後の児童の感想から

「パソコンを使いすごく分かりやすかった」

よくわかる授業

「展開図もすぐできたので面白かった」

学ぶ喜びのある授業

「立体の展開をパソコンでやり『すごい!!』
と思いました」

知的感動のある授業

「いろんな角柱や円錐についてもやってみたいです」

自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら学ぶ授業

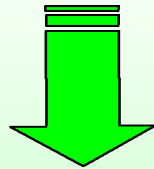


本校の目指す授業

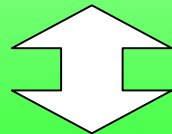
授業の評価 2 授業後の教師の反省から

- 子どもの歓声上がるような授業をしたのは初めての経験であった。
「よく分かる授業、感動体験のある授業」に近づくことが出来たと考えている。
- 子どもの歓声は、「動き」「画面の美しさ、大きさ」に対してではなかったか。子どもの感動・感激を質的に高い知的なものに高めていきたい。
- 教科書にそった従来の授業スタイルを変えなければならない。
- 指導者の予期しない子どもの疑問や意見が出て学習を深めることが出来た。
- 授業時数の削減、基礎基本の定着、加えて個の尊重とこれからの教育課程を考えるとパソコンを使った効率的な授業形態も必要である。
- 円柱・円錐の展開図はイメージしにくく、教具も作りにくいので、パソコンの利用が有効である。
- 1台のパソコンでは限界があり、もっと台数がほしい。
- パソコン操作になれ、気軽に授業の中に取り入れたい。

平成 1 1 年度の取り組みの成果



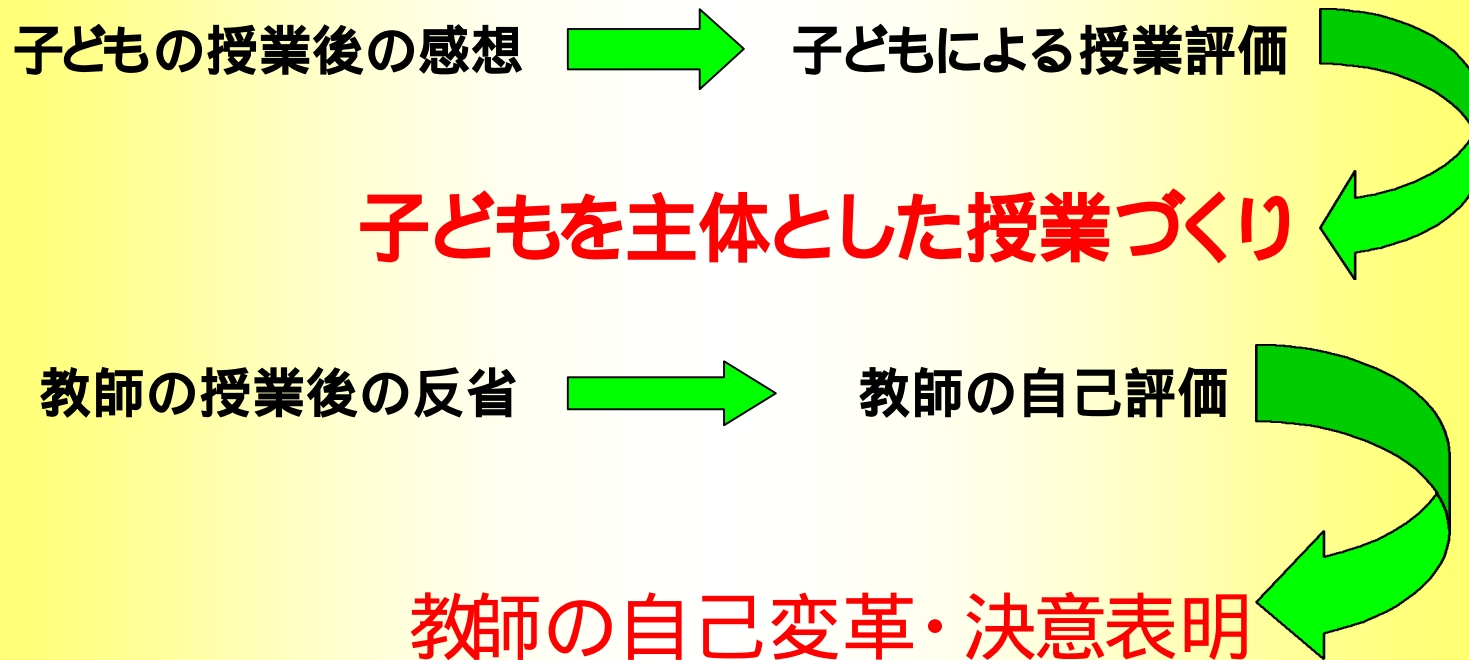
1. 1台のパソコンとプロジェクターで本校の目指す授業実践が可能であることを実証。
2. 授業構造改善の必要性を共通理解。
3. 授業でパソコンを使うことの有効性を確認。



教師の意識変化

平成12年度の取り組み 本校の目指す授業づくりのための仮説

■ 仮説 『授業評価』



仮説 『教師の表現力の向上』

教師の表現力の向上

子どもの表現力の向上

「よく分かり、感動体験
のある授業づくり」



平成12年度の具体的実践計画

1. 「手軽にパソコンを使った授業のできる環境整備」

パソコンに慣れ親しんできたとはいうもののパソコンとプロジェクターを接続しスクリーンを準備して授業をするのはどうしても面倒になってくる。手軽に職員がパソコンを使った授業ができるように本年度図書室を整備して2～3名に1台のパソコン教室を設置した。個別学習の場にもなるが基本的には一斉授業の充実をねらいにしたい。

2. 「せざるを得ない状況の設定」

昨年度、授業実践記録集を作成することを共通理解して、「せざるを得ない」状況に全員が立たされた。しかし実践記録集を作ることにより、職員のパソコン操作能力は急速に伸び、「書くこと」により自分の考えをまとめ、さらには自己変革の一助になった。本年度は実践記録集をホームページ形式で作成したい。



3. 「互いによい刺激を与え合って」

パソコンを使った授業をするときは「見に行ってもよいか」「いつでも来てくれ」といった感じで授業を気楽に公開し、「互いによい刺激を与え合って」伸びてきた。この雰囲気大切にしたい。

未来基金助成金等による教育環境の整備状況

平成11年5月

パソコン カラープリンター

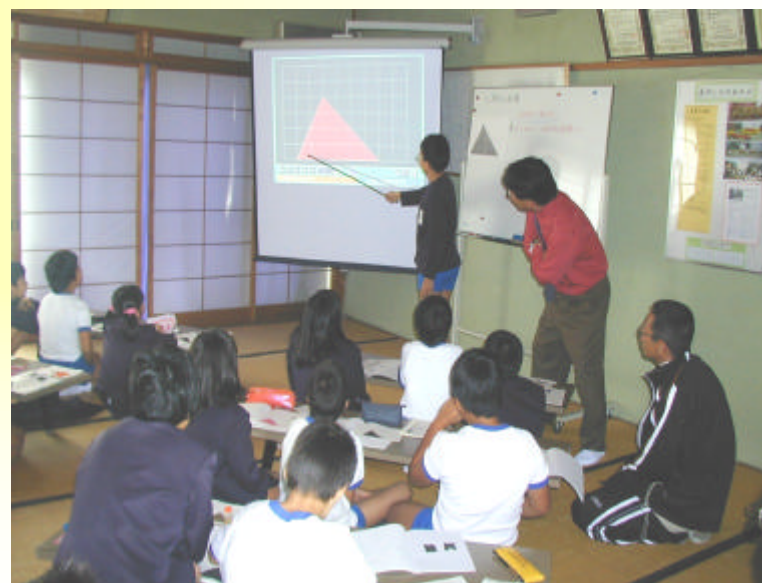
MO 液晶プロジェクター

デジタルカメラ スキャナー

算数シミュレーションソフト

スクリーン

遮光カーテン



1. 和室でパソコンとプロジェクターを使った一斉授業の開始

未来基金での購入機器は、本校だけのものではないという考え方で気軽に他校でも使ってもらっている(採択校の社会的責任を果たす場の1つとして)

2. デジタルカメラで掲示物等の作成

未来基金助成金等による教育環境の整備状況

平成11年11月 市費による整備

ノートパソコン2 レザープリンター
インターネット

(3年計画で市内全小学校に
CR室設置 整備済4校)



1. ノートパソコンを使い各教室でプロジェクターを利用
2. インターネット・メールの研修
3. 写真やカット入りの学級だよりの発行

未来基金助成金等による教育環境の整備状況

平成12年4月

ネットワーク

職員室・図書室・和室・校長室

平成12年8月

図書室にミニミニCR教室

パソコン7 レザープリンター

液晶プロジェクター

スクリーン ホワイトボード



図書室の図書を廊下の手作りの
書架に移動

最後に「 年未来基金採択校に選ばれ」

学校が大きく変わった！！

本校の教育方針が社会的に評価

保護者・地域社会からの学校に対する信頼感の深まり

学校のイメージチェンジ「花壇だけの学校ではない！！」

学校花壇の伝統校 平成11年度は文部大臣賞

PC周辺機器の整備

PCとプロジェクターを使った一斉授業の実施

職員のPC操作能力の向上 全職員がPCを個人所有

意識変化 「先進校だからできること」

「自分達もやらなくては」

授業構造改善のための意欲向上

教室に入る前にまず学級園に立ち寄る子ども達 総合的な学習

